

日刊県民福井 掲載記事 平成25年 12月12日

風疹予防接種検討を

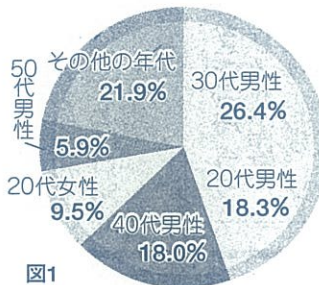
風疹は、妊婦（特に妊娠二十週まで）が感染すると、生まれてくる赤ちゃんに難聴、心疾患、白内障、精神や身体の発達の遅れなどの障害が生じることがあります。

今年（平成25年）は東京、大阪などの大都市部を中心に全国的に風疹が大流行し、現在までに風疹により、全国で二十六人の障害のある赤ちゃんが生まれています。風疹が流行すると、妊婦の方は不安な気持ちで日々を過ごすことから出産を迎えることにならざるを得ない状況に陥ることを、皆さんにも理解していただければと思います。

今年の風疹の流行を振り返ると、全国では一万四千人以上の患者が報告されており、二十〜四十代の男性と妊娠適齢期である二十代の女性が多くを占めています（図1）。特に、一九七九（昭和五十四）年四月一日以前生まれ（今年三十四歳以上）の男性は、定期の予防接種の機会がなかったこ

い き い き こ こ

妊婦と赤ちゃんのために



2013年の年代別風疹患者割合(全国)

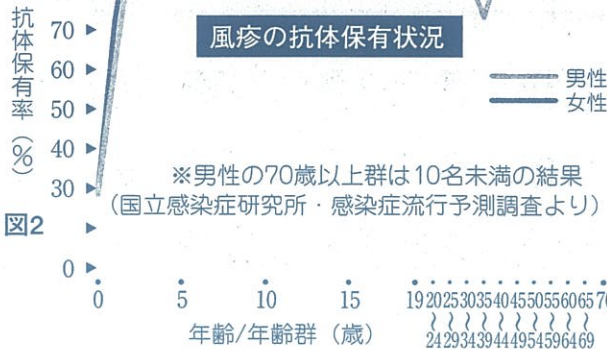


図2

※男性の70歳以上群は10名未満の結果
(国立感染症研究所・感染症流行予測調査より)

手洗いやマスクで守る

とから、風疹の免疫を十分に持っている方の割合が高くなる（図2）、流行の中心になっていきます。

福井県でも、現在までに二十人の患者が確認されています。二十人という数字は、多くはないと感じるかもしれませんが、しかし、これは、医療機関にかかって

風疹はインフルエンザの三倍以上の感染力があり、一人の感染者は免疫を持たない六〜七人に感染させるといわれています。しかし、一生に一回、できれば二回、予防接種を受けることで、風疹に感染することを防ぐことができます。

これからの季節、ノロウイルスを原因とする感染性胃腸炎やインフルエンザの流行シーズンですが、トイレに行った後の手洗いやせきをしているときのマスクの着用は、これらの感染症を周りの人にうつさないた

めのエチケットです。同じように、風疹の予防接種は、妊婦と赤ちゃんを守るためのエチケットではないでしょうか。

今年の風疹は、家庭や職場で感染していることが多く、いわれられていますので、妊娠を希望・予定している女性の方はもちろんですが、パートナーや家族の方にも予防接種を検討していただきたいと思います。また、職場の管理者の方は、女性従業員の方が安心して出産できる環境づくりのためにも、職場の風疹対策を積極的に推進していただきたいと思います。

すでに今年の風疹の流行は終息していますが、次の流行シーズン（春から初夏）まで数カ月しかありません。風疹に対して十分な免疫を持っていることを医療機関で確認したことのない方や、予防接種を受けたことのない方は、風疹の予防接種の前の検査を希望される場合は、近くの医療機関（内科、小児科など）にご相談ください。問い合わせは各健康福祉センターへ。（県健康増進課）